

根岸庵を訪う記

寺田寅彦

青空文庫

九月五日動物園の大蛇を見に行くとして京橋の寓居ぐうきよを出て通り合わせの鉄道馬車に乗り
 上野へ着いたのが二時頃。今日は曇天で暑さも薄く道も悪くないのでなかなか公園も賑おにぎわ
 うている。西郷の銅像の後ろから黒門くろもんの前へぬけて動物園の方へ曲ると外国の水兵が人
 力りきと何か八釜やかましく云つて直ねぶみをしていたが話が纏まとまらなかったと見えて間もなく商品
 陳列所の方へ行つてしまった。マニラの帰休兵とかで茶色の制服に中折帽かぶを冠かぶつたのがこ
 こばかりでない途中でも沢山たくさん見受けた。動物園は休みと見えて門が締まっているようで
 あつたから博物館の方へそして杉林の中へ這入はいつた。鞆ぶらんこに四、五人子供が集まつて騒
 いでいる。ふり返つて見ると動物園の門に田舎者らしい老人と小僧と見えるのが立つて掛
 札そこを見ている。其処そこへ美術学校の方から車が二台幌ほろをかけたのが出て来たがこれもそこへ
 止つて何か云うている様子であつたがやがてまた勸工場かんこうばの方へ引いて行つた。自分も陳
 列所前の砂道を横切つて向いの杉林に這入るとパノラマ館の前でやっている楽隊が面白そ
 うに聞えたからつい其方そちらへ足が向いたが丁度その前まで行くと一切り済んだのであろうぴ
 たりと止めてしまつて楽手は煙草などふかしてじろく見物の顔を見ている。後ろへ廻つ
 て見ると小さな杉が十本くらいある下に石の観音がころがっている。何々大姉だいしと刻してあ

る。真逆に墓表とは見えずまた墓地でもないのを見るとなんでもこれは其処で情夫に殺された女か何かの供養に立てたのではあるまいかなど、凄涼な感に打たれて其処を去り、館の裏手へ廻ると坂の上に三十くらいの女と十歳くらいの女の子とが枯枝を拾うていたからこれに上根岸までの道を聞いたたら丁寧^{ていねい}に教えてくれた。不折の油画^{ふせつ あぶらえ}にありそうな女だなど考えながら博物館の横手大猷院尊前^{だいういん ぞんぜん}と刻した石燈籠の並んだ処を通つて行くと下り坂になった。道端に乞食が一人しやがんで頻りに叩頭^{ねかす}していたが誰れも慈善家でない^{びたいちもん}と見えて、鋸一文も奉捨にならなかつたのは氣の毒であつた。これが柴とりの云うた新坂なるべし。つづくほうし^{つかつかほうし}が八釜しいまで鳴いているが車の音の聞えぬのは有難いと思つて、いると上野から出て来た列車が煤煙を吐いて通つて行つた。三番と掛札した踏切を越え、と桜木町で辻に交番所がある。帽子を取つて恭しく子規の家を尋ねたが知らぬとの答故少々意外に思つて顔を見詰めた。するとこれが案外親切な巡査で戸籍簿のようなものを引つくり返して小首を傾けながら見ておつたが後を見かえつて内に昼ねしていた今一人のを呼び起した。交代の時間が来たからと云うて序にこの人にも尋ねてくれたがこれも知らぬ。この巡査の少々横柄顔^{おうへいがおしやく}が癪にさわつたれども前のが親切に對しました恭しく礼を述べて左へ曲つた。何でも上根岸八十二番とか思つていたが家々の門札に氣を付けて見て行くうち

前田の邸^{やしき}と云うに行^{ゆき}当^{あた}ったので漱石師^{そうせきし}に聞いた事を思い出して裏へ廻ると小さな小路^{こうじ}で角^{うぐいすよこ}に鶯^{うぐいすよこ}横^{よこ}町^{まち}と札^はが打^{うち}つてある。これを這入^{はいりこ}つて黒板塀^{くろばんべい}と竹藪^{たけくさ}の狭^{せま}い間^{かん}を二十間^{にじゅうかん}ばかり行くと左側に正岡常規^{つねのり}とかなり新しい門札^{かど}がある。黒い冠木門^{かぶきもん}の両開^{りょうひら}き戸^こをあけるとすぐ玄関で案内を乞^ねうと右脇にある台所で何かしていた老母らしきが出て来た。姓名を告^つげて漱石師より予^{かね}て紹介^{しょうかい}のあつた筈^{はず}である事など述べた。玄関にある下駄^{げた}が皆女物で子規^{しき}のらしいのが見えぬのが先^{さき}ず胸^{むね}にこたえた。外出と云う事は夢の外^{みよりのほか}ないであろう。枕^{まくら}上^{がみ}のしきを隔^へてて座^ざを与^{たま}へられた。初対面^{はつたいめん}の挨拶^{あいさつ}もすんであたりを見廻^{みまわ}した。四畳半^{よじやうはん}と覺^{おぼ}しき間の中央^{ちゆうま}に床^{とこ}をのべて糸^{いと}のように瘦^{しやう}せ細^こつた身体^{しんたい}を横^{よこ}たえて時々^{ときとき}咳^{せき}が出ると枕^{まくら}上の白木の箱^{はこ}の蓋^{ふた}を取^とつては吐^はき込^こんでいる。蒼白^{そうはく}くて頬^ほの落^おちた顔^{かほ}に力^{ちから}なけれど一片^{いっぺん}の烈火^{れつて}瞳^と底^ぞに燃^もえているように思^{おも}われる。左側に机^こがあつて俳書^{はいしよ}らしいものが積^たんである。机^こに倚^よる事^{こと}さえ叶^{かな}わぬのであろうか。右脇には句集^{くしふ}など取散^{とくさん}らして原稿紙^{げんこうし}に何か書きかけていた様子^{ようす}である。いちばん目に止^{とど}まるのは足^{あし}の方^{かた}の鴨居^{かもい}に笠^{かさ}と簑^{ふし}とを吊^かして笠^{かさ}には「西方十^{しつぽうじふ}万億土順礼^{まんいつどしゆんれい} 西子^{せいし}」と書^かいてある。右側の障子^{しょうし}の外^{ほか}が『ホトトギス』へ掲^かげた小園^{せうえん}で奥行^{おくぎやう}四間^{しよかん}もあろうか萩^{はぎ}の本^{もと}を束^もねたのが数株^{かずぐし}心のままに茂^もっているが花^{はな}はまだついておらぬ。まいかいは花^{はな}が落^おちてうてながまだ残^{のこ}つたままである。白粉^{おしろい}花^{はな}ばかりは咲^さき残^{のこ}っていた

が鶏頭けいとうは障子にかくれて丁度見えなかった。熊本の近況から漱石師の噂になって昔話も出た。師は学生の頃は至って寡言かげんな温順な人で学校なども至って欠席が少なかったが子規は俳句分類に取りかかつてから欠席ばかりしていたそうだ。師と子規と親密になったのは知り合つてから四年もたつて後であつたが懇意になるとずいぶん子供らしく議論なんかして時々喧嘩けんかなどもする。そう云う風であるから自然細君さいくんといさかう事もあるそうだ。それを予め知つておらぬと細君も驚く事があるかも知れぬが根が気安過ぎるからの事である故驚く事はない。いったい誰れに対してもあたりの良い人の不平の漏らし所は家庭だなど云う。室の庭へやに向いた方の鴨居に水彩画が一葉隣室に油画が一枚掛つている。皆不折が書いたので水彩の方は富士の六合目で磊々らいらいたる赭土塊あかつちくれを踏んで向うへ行く人物もある。油画は御茶の水の写生、あまり名画とは見えぬようである。不折ほど熱心な画家はない。もう今日の洋画家中唯一の浅井忠氏ちゆうを除けばいずれも根性の卑劣な嫉ほうしつの強い女のような奴ばかりで、浅井氏が今度洋行するとなると誰れもその後任を引受ける人がない。ないではないが浅井の洋行が厭いやであるから邪魔をしようとするのである。驚いたものだ。不折の如きも近来評判がよいので彼等の妬みねたを買ひ既に今度仏国博覧会へ出品する積りつもの作も審査官の黒田等が仕様もあろうに零点をつけて不合格にしてしまったそうだ。こう云う風

であるから真面目に熱心に斯道しどうの研究をしようと云う考えはなく少しく名が出れば肖像でも画いて黄白こうはくを食むさらうと云うさもしい奴ばかりで、中にたまたま不折のような熱心家はあるが貧乏であるから思うように研究が出来ぬ。そこらの車夫でもモデルに雇うとなると一日五十銭も取る。少し若い女などになるとどうしても一円は取られる。それでなかなか時間にかかるから研究と一口に云うても容易な事ではない。景色画でもそうだ。先頃しゅう上週間行つて直して来いと云われたからまた行つて来てようよう出来上がったと云つていたそうだ。それでもとにかく熱心がひどいからあまり器用なたちでもなくまだ未熟ではあるが成効するだろうよ。やはり『ホトトギス』の裏絵をかく為山いざんと云う男があるがこの男は不折とまるで反対な性で趣味も新奇な洋風の好む。いったい手先は不折なんかとちがつてよほど器用だがどうも不勉強であるから近来は少々不折に先を越されそうな。それがちと近来不平のようであるがそれかと云うてやはり不精だから仕方がない。あのくらいの天才を抱つきながら終に不折の熱心に勝を譲るかも知れぬなど話しているうち上野からの汽車が隣の植込の向うをこんくと通つた。隣の庭の折戸の上に鳥からすが三羽下りてガー／＼とな。夕日が暈の半分ほど這入つて来た。不折の一番得意で他に及ぶ者のないのは『日本』

に連載するような意匠画でこれこそ他に類がない。配合の巧みな事材料の豊富なものには驚いてしまう。例えば犬百題など云う難題でも何処かから材料を引っ張り出して来て苦もなく拵える。いったい無学と云つてよい男であるからこれはきつと僕等がいろんな入智恵をするのだと思う人があるようだが中々そんな事ではない。僕等が夢にも知らぬような事が沢山あつて一々説明を聞いてようやく合点が行くくらいである。どうも奇態な男だ。先達て『日本』新聞に掲げた古瓦の画などは最も得意でまた実際真似は出来ぬ。あの瓦の形を近頃秀真と云う美術学校の人が鋳物にして茶托にこしらえた。そいつが出来損なつたのを僕が貰うてあるから見せようとて見せてくれた。十五枚の内ようよう五枚出来たそうで、それも穴だらけに出来て中に破れて繕つたのもあるが、それが却つて一段の趣味を増しているようだと言うたら子規も同意した。巧みに古色が付けてあるからどうしても数百年前のものとしか見えぬ。中に蝸牛を這わして「角ふりわけよ」の句が刻してあるのなどはずいぶん面白い。絵とちがつて鋳物だから蝸牛が大変よく利いてるとか云うて不折もよほど気に入った様子だった。羽織を質入れしてもぜひ拵えさせると云うていたそうだと。話し半ばへ老母が珈琲を酌んで来る。子規には牛乳を持って来た。汽車がまた通つて

つづくほうし

の声を打消していった。初対面からちと厚顔しいようではあつたが自

分は生来絵が好きで予かねてよい不折の絵が別けても好きであつたから序ついでがあつたら何でもよいから一枚呉くれまいかと頼んで下さいと云つたら快く引受けてくれたのは嬉しかった。子規も小さい時分から絵画は非常に好きだが自分は一向かけないのが残念でたまらぬと唧かこつていた。夕日はますます傾いた。隣の屋敷で琴が聞える。音楽は好きかと聞くと勿論きらいではないが悲しいかな音楽の事は少しも知らぬ。どうか調べてみたいと思うけれどもこれからでは到底駄目であろう。尤もつともこの頃人の話で大凡おおよそこんなものかくらいは解つたようだが元来西洋の音楽などは遠くの昔バイオリンを聞いたばかりでピアノなんか一度も聞いた事はないからおさら駄目だ。どうかしてあんなものが聞けるようにも一度なりたいと思うけれどもそれも駄目だと云うて暫く黙した。自分は何と云うてよいか判らなかつた。黯あんぜん然として吾われも黙した。また汽車が来た。色々議論もあるようであるが日本の音楽も今のままでは到底見込みこみがないそうだ。国が箱庭的であるからか音楽まで箱庭的である。一度音楽学校の音楽室で琴の演奏を聞いたが遠くで琴が聞えるくらいの事で物にならぬ。やはり天井の低い狭い室でなければ引合わぬと見える。それに調子が單純で弾ずる人に熱情がないからおさらいかん。自分は素人しろうと考かんえて何でも楽器は指の先で弾くものだから女に適したものとばかり思っていたが中々そんな浅いものではない。日本人が西洋の楽器を

取つてならす事はならずが音楽にならぬと云うのはつまり弾手ひきての情が単調で狂すると云う事がないからで、西洋の名手とまで行かぬ人でも樂がくの大切な面白い所へくると一切夢中になつてしまふそうだ。こればかりは日本人の真似の出来ぬ事で致し方がない。ことに婦人は駄目だ、冷淡で熱情がないから。露伴ろはんの妹などは一時評判であつたがやはり駄目だとう事だ。空が曇つたのか日が上野の山へかくれたか疊の夕日が消えてしまいつくつくほうしの声が沈んだようになった。鳥はいつの間にか飛んで行つていた。また出ますと云うたら宿は何処どこかと聞いたから一兩日中に谷中やなかの禪寺へ籠る事を話して暇いとまを告げて門へ出た。隣の琴の音が急になつて胸をかき乱さるような気がする。不知不識しらずしらず其方へと路次を這入はいると道はいよいよ狭くなつて井戸が道をさえぎっている。その傍で若い女が米を磨といでいる。流しの板のすべりそうなのを踏んで向側へ越すと柵があつてその上は鉄道線路、その向うは山の裾である。其処を右へ曲るとよう／＼広い街に出たから浅草の方へと足を運んだ。琴の音はやはりついて来る。道がまた狭くなつてもとの前田邸の裏へ出た。ここから元来た道を交番所の前まであるいてここから曲らずに真直ぐに行くとまた踏切を越えねばならぬ。琴の音はもうついて来ぬ。森の中でつくつくほうしがゆるやかに鳴いて、日陰だから人が蝙蝠傘こうもりがさを阿弥陀にさしてゆる／＼あるく。山の上には人が沢山たくさん停車場から凌り

雲閣ようんかくの方を眺めている。左側の柵の中で子供が四、五人石炭車に乘ったり押したりしている。機関車がすさまじい音をして小家の向うを出て来た。浅草へ行く積りであつたがせつかく根岸で味おうた清閑の情を輕業かるわざの太鼓御賽錢おさいせんの音に汚けがすが厭になつたから山下まで来ると急いで鉄道馬車に飛乗つて京橋まで窮屈な目にあつて、向うに坐つた金縁きんぶち眼鏡隣めがねに坐つた禿頭の行商と欠伸あくびの掛け合いで歸つて来たら大通りの時計台が六時をつた。

(明治三十二年九月)

青空文庫情報

底本：「寺田寅彦全集 第一巻」岩波書店

1996（平成8）年12月5日発行

底本の親本：「寺田寅彦全集 第一巻」岩波書店

1985（昭和60）年7月5日第3刷発行

入力：Nana ohbe

校正：松永正敏

2004年3月24日作成

2016年2月25日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

根岸庵を訪う記

寺田寅彦

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>